

【一関市地球温暖化対策地域協議会取材報告】

一関市地球温暖化対策地域協議会 高橋郷氏 COP25 報告会の開催

令和元年 12 月 19 日(木)14:00~17:00

一関市地球温暖化対策地域協議会 会長徳谷宅にて

IEL 会員 9 名、取材：岩手日日新聞 佐藤氏、センタースタッフ 1 名

【プログラム】

①高橋 郷氏の報告会 (PP 使用)

②情報意見交換 (各自質疑応答)

③懇談会 (お茶会形式)

COP25 へ参加された高橋郷氏の報告会

冒頭「まとまらないで終わった COP25」と一言。期待していったのに残念との声。何故このような会議になってしまうのかとも話されました。



●まとまらない中での COP 成果

【主な合意事項】

・ 2020 年には産業革命より気温上昇 2°C 以下 (1.5°C を目標とした努力を続けなければならない) に抑えるための削減のための更なる目標設定と具体的な行動に入ることを明記。

・ ロス&ダメージにおける技術支援を促進するためのサンディエゴ・ネットワークの設置

・ ジェンダー行動計画の策定。

●焦点：パリ協定-1.5°C未満に抑えるために】

※削減量を国際的に転移、取引するための市場メカニズム (6 条)

・ 6 条 2 項 (協力アプローチ) 多国間、二か国間での分散型試乗メカニズム (日本の JCM もここに含まれる)

・ 6 条 4 項 (国連管理型市場メカニズム) 指定する期間が取引を管理 (CDM)

・ 6 条 8 項 (脱市場メカニズム) 具体策は？

EU は、新たなルール設定による国際炭素取引市場の設置を提案

全ての国の合意を取るために削減量をどうするか 6 条 2 項、4 項、8 項に沿って議論

した。

※論点

- ・ダブルカウントをどう防ぐか？「インドとブラジルはダブルカウントをしろ！」と
いっている。
- ・一部の国と先住民を中心とした非国家アクターは、脱市場メカニズムを要求。
- ・損失と被害（loss and damage）の補償は？多心的な目標に向けて（国連の指針）
2030年までに、45%の削減」。2050年までにカーボンニュートラルを達成。
- ・ビジネスセクター、170の主要企業は科学的知見に基づいて削減目標を設定する。
- ・国別目標（NDCs）には、カーボンニュートラルに向けた戦略の提示。

●日本のプレゼンス

- ・「2050年に二酸化炭素の実質排出ゼロ」宣言をした自治体数が28。
この中の9自治体が岩手県。（人口4500万人をカバー）久慈市、二戸市、洋野町、一戸町、
軽米町、葛巻町、九戸村、野田村、普代村
- ・GCF（気候基金）の最大級のドナーであること。
- ・TCFD（気候変動関連財務情報開示タスクフォース）への賛同企業・機関が世界一。

●各国の立ち位置

※EIG6 各国

- ・スイス、モナコ、リヒティンシュタイン、メキシコ、ジョージア、韓国

※アンブレラグループ

環境と経済成長のバランスを重視、二分論に反対

- ・米国・日本・カナダ・ロシア、ニュージーランド等

※ベーシック

- ・南アフリカ、ブラジル、インドネシア

●化石賞（日本は不名誉な2回目の受賞）

前向きな取り組みを見せない国に対してアンブレラグループが批判された。

●旗手の登場 グレタ トゥンベリさん

「私以外の若者の声にも耳を傾けてください」ということで今回はあまり表立ってはいなかった印象。

●問題点 GAP の存在

会場内（頑張るぞ）と、会場外（ふざけるな）でのGAP。外では抗議運動が行われていた。

●問題点 COP のショー化

「人類は希望か降伏の二択に迫られている」とポルトガルの元首相がツイッターで発言するなどあったトップの人間が一般の議論にも参加することが必要ではないか？トップの人が表に出てこない

【取材後記】

2日間会期を延長したのにも関わらず何も決まらなかったことがやはり各国の思惑など経済が絡んでいることを実感しました。このような議論に費やす年数だけが進み、温暖化対策への取り組みが手遅れとなるのではという危機感も否めないところです。

(すでに遅いのかもかもしれませんが)

情報意見交換の中で、「すぐ可能でない議論に時間を使ってはいけないという議論もある」と話された方もおりました。同感です。技術開発など時間のかかることを研究する方たちにはそのままお願いをして、私たちは今できることをすぐ始めなければいけないと感じた報告会でした。

高橋郷氏 COP25 報告会の様子令和2年1月17日岩手日日に掲載されました。

下記 URL 参照ください。

<https://www.iwanichi.co.jp/2020/01/17/815986/>